

森の風の記憶

Presented by 諸塚村観光協会「まちむら応縁倶楽部」

諸塚の四季 Vol 1 台風災害

創刊第2号

平成17年10月15日発行

目次:

やま学校日記	2
諸塚を食べる	4
諸塚に泊まる	5
イベント案内	6

この通信誌は、ご希望の方はメールでもお届けできます。下記にご連絡ください。

通信誌「森の風の記憶」第1号が皆様のお手元に届いたと思いますが、予想以上の反響に驚いております。また、台風14号の災害以降、多くの方から励ましのお便りやメール、そして義捐金まで寄せられました。紙面を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

台風直後のエピソードの一つです。村の緊急時の要である防災無線の中継基地が、台風災害で電線が切れ電力供給が途絶えました。標高1,000mの隣村の山中にあり、そこまでの道路が大規模な路肩決壊を起こし、車がまったく通れない状態でした。応急処置として、初日は職員が発電機の燃料タンク10^{キロ}を担ぎ、徒歩で往復6時間の登山をし、仮復旧しましたが、燃料タンクは8時間しか持ちません。2日目には、燃料補給と車の通行可能なルートを探すため、職員3人でやはり徒歩で山に登りました。早朝5時に出て、中継基地には8時に着きました。朝日がとても美しく、台風災害対策の登山でなければ、とても気持ちのいい山登りになったと思います。8時間後に燃料が切れますので「夕日も見にこようよ」と冗談のような本気のような絶望的な会話をしつつ、から元気で明るく強がって山を降りました。

車のルート開拓のため別な道を帰っていると、道路が通れず閉じ込められた隣村の集落の方に会いました。道路の復旧作業中で、家には電気も水も電話も通じず、集落総出でがんばっていました。さらに歩いていくと隣村役場職員と消防団も反対側から作業していて、夕方には復旧できそうでした。

えてしてこういうときは、不平不満や批判が先にでてしまうものですが、ここではそんなことはありません。地域生活は自分たちで守るべきもので、行政や公共サービスがそれを的確にサポートするという自立の精神が生かされていました。逆に文句や批判をしても、小さな村全体のことでこの状況ではだれも対応できず、かえって混乱を助長させるだけなのかもしれません。自立とは何なのかを考えさせられました。ちなみにその日の夜に中継基地の電気は復旧し、残念ながら夕日は見れませんでした。

全村森林公園 諸塚
百彩の森づくり

諸塚村

宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代3068
しいたけの館21内諸塚村観光協会
0982-65-0178
Fax 0982-65-0189

先月の出来事

- 9月3日 産直住宅・長崎大村市N邸木材検査
- 9月6日 台風14号襲来記録的豪雨
- 9月17日 産直住宅都城市N邸木材検査
産直住宅熊本市T邸上棟式
- 9月20日 ~ マスコミ各社が台風取材に殺到
- 9月22日 産直住宅熊本宇城市T邸上棟
- 9月26日 観光協会事業理事会



紅葉の森林を抜ける林道

HP <http://www.vill.morotsuka.miyazaki.jp>
e-mail ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp

やま学校日記特別編 平成17年9月6日(火) 台風14号ドキュメント

「強い勢力の台風14号が九州に上陸しそうだ。」天気予報の情報から脳裏をよぎったのは、昨年の台風16,18号による災害の生々しい記憶でした。自然災害は人間の都合に合わせてくれない、というのは頭では分かりますが、まだそこまで追い込まれた記憶はなく「今回は事前に警戒するよりは軽く済まないだろうか」という期待のようなものがあった気がします。「やましぎの杜の屋根は(杉皮は)今度は大丈夫かな」(結果無事でした)などと考えてました。まさか耳川の氾濫によりこれほどのダメージを受けるとは誰が想像したのでしょうか？



5日の夜中から6日の午前中にかけての雨の降り方といったら今まで経験した事のない激しい長時間の雨でした。その合間には役場が臨時の避難場所となり、増水し始めた村中心部から、たくさんの家族が避難してきました。

6日夜明けに、Aコープから入る県道が冠水しはじめると、見る見るうちにAコープが浸水し、水位が最高に達したのは6日の午前11時頃だったと思います。水位上昇はホントにあっという間で、よく事故者が出なかったなというのが正直なところです。昼間だったのが不幸中の幸いと言うところでしょうか。



台風の最中の情報で一番ショックだったのが、「もろっこハウスが流された」でした。しかも誤報だったのですが、販売会のため大阪に出張中の担当者にどう言えがいいだろうといらぬ心配をしましたが、極限に近い状態では情報が錯綜するものだというのも今回分かりました。人はショッキングな映像を目の当たりにすると思いがけない言動に出るのかもしれませんが。

台風一過、水が引いて現れた国・県道には大量に土砂が堆積し、流出した店舗が国道をふさいでいる状態で、対策を取ろうにも身動きが全く取れない状況でした。ここでいち早く活躍したのが村内建設業の方々の重機でした。すぐさま車が1台通れる分の土砂を撤去した後は、あっという間に路上の土砂が取り除かれたように感じました。それから、村民や様々な企業、村外ボランティアの方々により、店舗や民家へ流入した土砂の撤去が始まり、台風からほぼ1週間以内には大きな作業は終わっていたようです。どこからの要請があったわけでもなく、自主自立の精神で住民が行動したため、早期の復旧ができたのだと思います。

壊滅的打撃を受けた商店街でも再建に向けて動いています。村内いたる地区で復旧に向けての作業が毎日行われています。きつい状況はしばらく続きますが、多くの方々から励ましをいただきながら、「がんばろう！諸塚」。



まちの声 (がんばろう！諸塚Blogから抜粋)

諸塚に行くまでの途中の景色は、想像を絶するものでした。アスファルトがまるでゴムの敷物をあちこちにおいてあるように散乱してるし、屋根と柱だけの家があったりしました。

諸塚に着いたら、復旧作業の人が黙々と働いていました。家はほとんど全壊状態で言葉もありませんでした。家の近所も水害にあって、家財のすべてを流され制服や教科書もなくした子供もいました。聞いた話では、高台に住んでる人が川を見ていたら、家が流れていたそうです。今までだったら考えられないですね。



多くの方から寄せられたお見舞いの手紙

「ガンバローもろつか」垂れ幕に涙 でも、諸塚で『ガンバローもろつか』の垂れ幕を見た時は涙が出ました。みんな少しでも早く元に戻ろうと頑張ってる姿が見えました。何も手伝えないけど頑張ってほしいと思います。

諸塚が大好きです。早くもとのような諸塚に戻れるよう祈っています。(日向市Uさん)

台風で大きな被害を受けた南川公民館にはいつも大変お世話になっているので、館長のKさん宛に簡単なお見舞いの手紙をお送りしましたところ、ご丁寧に本日便箋3枚に綴った返信を頂きました。「西に東に走りまわって」おられるところ、返って迷惑をかけてしまったと恐縮しております。本当に有り難うございました。

私信ですが、手紙に書いて頂いた、最後の言葉と短歌を紹介させて下さい。

「来年の神楽までには通常にもどれると思います。是非、おこし下さい。お待ちしております。」

「秋晴れて 台風明けの運動会 旗の彼方へ山崩えの見ゆ」

神楽には必ず行きます。(福岡市Sさん)

「神楽には必ず行きます」

むらの声 今月の世話人 高野晃成

たかの てるなり 佐賀県出身

平成14年に横浜の大手企業を退職して諸塚村に家族4人で移住。ど素人ながら(財)ウッドピア諸塚に森林作業隊員として入社。現在は5人目の家族も誕生し、村内各方面で活躍中。

台風当日から消防団およびウッドピアの職員として安全対策や復旧活動をしました。台風の最中近所の家の屋根が飛ばされると連絡が入ると、公民館長をはじめ隣近所の方と地区の消防団員がすぐに駆けつけ、家財道具が雨に濡れないよう皆さんが動かれ、それが終わると消防団と地区の有志の方が大事な生活道に倒れかかった風倒木・土砂の除去に走り回りました。

翌日は、公民館民全員で早朝より生活道路の清掃、消防団員は出動できる者だけ集まり、昨日台風で屋根を飛ばされた家の片付けと災害が大きかった地区の片付けを手伝いました。翌日からは、消防団に招集がかかり、2日間被害が最も大きかった地区の災害復旧作業をしました。その後は、ウッドピア職員として中心街の家屋内外・道路の土砂除去、消毒薬撒布、流出した水道管の設置等の作業を実施しました。婦人会は、ボランティア活動をする人への炊き出し、被災された方達への物資援助(衣類、食器、日用品等)の活動をされていました。

これらの作業を通して、感じたことは、人をまとめる役である各公民館長、消防団長・部長、ボランティアリーダーが自分の役割を認識し、また村民各人がやらなければならない事を理解し、当たり前のように活動していることに深く感心しました。

そして、もう1点感心した点が「皆さんの家が台風被害にあったから片付け手伝うわ」と会社に連絡すれば「そりゃ大変じゃな。手伝どうてやれ」という関係が出来上がっていることです。都会ではあり得ない話です。自分の事なら当たり前でしょうが、言ってみれば他人です。都会では理解されないでしょう。あらためて、公民館制度の完成度を実感しました。

諸塚を食べる！（２） 諸塚椎茸「霧六峰」

10月も半ばだというのに日中は気温が26～27度あり、諸塚村役場は全く衣替えが出来ていない今日この頃ですが、諸塚特産「シイタケ」は今からが秋子（あきこ）の季節です。秋子（あきこ）というのはシイタケに女の子の名前を付けてみました、というわけだけでなく、椎茸の発生時期により、春（2～4月）発生するものを春子（はるこ）、秋（9～11月）発生するものを秋子と呼びます。今はハウス栽培や菌床栽培、種菌の改良で1年中生シイタケをつくれますが、何ととっても寒い時期にゆっくりと発育した肉厚で弾力のあるシイタケが最高です。湿度が低い状況で“かさ”の表面に細かく亀裂が入ると見た目も美しいシイタケの最高級品「天白冬菇（てんぱくどんこ）」となります。諸塚村は、宮崎県の乾椎茸品評会で11年連続団体優勝をしており、原木栽培の高品質シイタケは諸塚の特産品ブランド「霧六峰」として大変好評です。



今からの寒い季節は鍋、鍋といえばシイタケ、年間でこれからが最もシイタケが食される時期です。個人的には、生シイタケはたっぷりのバターで炒めるのが好きです（贅沢な食べ方なので家ではなかなかお目にかかりませんが）。ただ、炒める際かなり量のバターを吸収しますので、脂肪が気になる方はどうかと思いますが…。他には炭火で焼きながらかさの中に味噌を入れたり、焼き肉のタレを垂らしたり、焼酎を垂らしたり…と完全につまみの話になっています。

椎茸ステーキにするのは生シイタケと思っている方もいるかもしれませんが、乾しシイタケを水で戻したもののほうが、味は濃く美味しいため「どんこ亭」で人気のシイタケステーキも乾しシイタケを使っています。宮崎市の「海幸山幸」等で人気のどんぐりハウスの「しいたけ寿司」ももちろん乾しシイタケです。



クヌギやナラの木に植菌して育てる原木栽培が主流の諸塚村でも、菌床栽培施設が今年新たに完成し、菌床でマイタケやシイタケの栽培も行っています。しかし、香りや味の面では原木栽培に優るものではありません。長い年月と手間暇が掛かりますが「原木栽培発祥の地」諸塚村では、原木栽培にこだわった椎茸づくりがこれからもずっと続けられると思います。クヌギ、ナラのシイタケの原木を育てる林業との複合経営で、モザイク林相に代表される広葉樹の豊かな森林の維持管理を行うためにも…。

味わい深い旬のシイタケを皆様もいかがですか！

マメ知識 ～ 乾しシイタケと太陽のコラボレーション

乾しシイタケを戻すとき、ぬるま湯に砂糖をひとつまみ加えると柔らかみが増し、美味しくなるそうです。また、シイタケに含まれるエルゴステロールという成分は紫外線に当たるとビタミンD（カルシウムの代謝を正常に保つ）に変わります。ただし1ヶ月経つとビタミンDは半減しますが、天日干しすることで再度生成されます。森の恵みと太陽の光の生み出す不思議なコラボレーションです。乾シイタケは、水に戻す前にちょっと日に干してみましよう。

諸塚に泊まる(2)

森の古民家「やましぎの杜」

やましぎの杜は、村中心部から国道503号線をたどり、途中から急な坂道の村道を上った標高646mの山間にあります。役場から15分ほどですが、初めての方は「ほんとに民家があるんだろうか」「道を間違えたのでは」...たどり着くまでに濃密でスリリングな時間が流れます。



集落は、合鴨地区といわれますが、尾根沿いにあり、渡り鳥のシギがそこでいっしょになって大陸へ舞っていったのでそう呼ばれたのではと勝手に推理しています。もともと3戸の集落で、そのうち2戸が事情で転出したところを、村が体験施設として整備し、集落の方が管理する「森の古民家」第1号となりました。

地名から「やましぎの杜」と命名し、2つの建物は屋号から「したしぎ」と「なかしぎ」とつけました。「なかしぎ」は築130年を超えた古いもので、梁や桁の大きさが特徴です。お風呂に入りながら諸塚山が見える展望風呂が素敵です。

「したしぎ」は、屋根をスギ皮で葺き、囲炉裏やかまど、五右衛門風呂を復活させました。やましぎの杜で炊くかまどのご飯は格別で、体験ツアーでも一番人気です。五右衛門風呂は、懐かしいと喜ばれる方、おっかなびっくりで入られる方いろいろです。親子で風呂の焚き付けをすると、無理しなくても自然と心が通います。囲炉裏の周りの大きな部屋を子供たちは駆け回り、おもちゃもテレビもなくとも楽しい一日が過ごせます。

スギ皮葺きの屋根は、昔は諸塚含めた高千穂地方の庶民の家ではよく見られたそうですが、今は全くななくなっています。ワークショップ形式で屋根葺きをしましたが、都会からボランティアが約30名集まり、地元のお年寄りが子供の頃やっていたのを思い出しながら指導しました。およそ50年ぶりの作業でした。

昨年の台風で一部皮が剥げる被害が出ましたが、来年はワーキングホリデーでの補修葺きを企画する予定です。その折にはこの紙面でも紹介しますので、是非ご参加ください。



施設情報

「やましぎの杜」

定員 15名 * 2棟 = 30名 専用浴室・専用便所・専用台所・布団一式付
台所に簡単な食器類・冷蔵庫・炊飯器が付いています。

利用料 一般 1泊2日 3,000円/人 (10名以上の団体 2,500円/人)
中学生以下 2,000円/人 3歳未満 無料

手続き チェックイン

15時~17時

チェックアウト 11時

予約・問合せ先 しいたけの館 21

0982-65-0178

Fax 0982-65-0189



イベント情報

諸塚の祭り(2) 家代神社秋祭り 家代青年団 黒木

諸塚村の南東に位置し、かつては村役場や小学校も置かれていた「家代地区」。この秋祭りの見所は、原作・演出・出演すべて地元青年団による『地芝居』です。

自分たちの伝統をしっかりと受け継ぎ、次の代につなげる。そして、次の世代も自分なりのアレンジを加えながら伝統を守り演じる。そんな流れが、ずっと昔から続いている歴史ある演芸です。手作りの芝居とはいえ、熱のこもった本格的なもので、リピーターも多く毎年たくさんの方が涙します。

秋の夜長に、美味しい焼酎を飲みながら『地芝居』で涙してみませんか？皆様のご観覧、心よりお待ちしております。

日時 平成17年11月2日(水) 6時30分受付開始
場所 諸塚村家代公民館

内容 演芸(舞踊)

中入れ(休憩30分) 飛び入り演芸大歓迎です。
家代青年団地芝居 演目『原七おこま捕物帳』
時間は変更になる場合がございます。



祭りはどなたでも参加できます。ただし、みなさんご神前(現金か焼酎2升程度)を上げられているようです。詳しい場所や時間は、観光協会までお問い合わせください。

【10・11月の予定】

10月20～21日

森のエコスクール・延岡市緑ヶ丘小学校

10月22日第61回エコツアー-

「諸塚でやま学校しよう!」～23日

(秋祭り、炭焼、地焼耐講座)

諸塚神社秋季大祭 南川神社秋季例大祭

八重の平神社秋季例大祭

10月23日 川内神社秋祭り

10月30日 黒岳もみじ祭り

11月2日 家代神社秋祭り

(臼太鼓・地芝居)

11月3日 川の口神社秋季祭典

七ツ山桂神社秋祭り

(臼太鼓)

11月23日 松の平神社秋祭り

(臼太鼓)

11月26日第62回エコツアー-

「諸塚でやま学校しよう!」～27日

(蕎麦打ち・藁と葛細工・大忘年会)

宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代3068

しいたけの館21内諸塚村観光協会

0982-65-0178

Fax0982-65-0189

e-mail ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp



編集後記

10月に入っても「寒くなったな」という日がまだありません。年々暖くなるような気さえします。といって去年もやっぱり寒くはなりましたが、*昔は夏が嫌いだったのですが、その夏が短く感じだしたのは川で遊ぶことを覚えてからでした。川は自然の力でまた再生するのでしょうか？*言いたくはありませんが、もう11月...(直)

今回災害でも一番激しかった個所のひとつ、私の生まれたM地区では豪雨のため、あちこちで土砂崩れがおき、その土砂が河川に流入して、地域を流れる谷川の下流1kmが完全に埋まってしまいました。途中の橋の高さは川から10m近くあったのですが、その橋桁を越えそうなほどの土砂の量です。昔私の家があったあたりも埋まってしまいました。その小さな川は、河川沿いに広葉樹が繁っていて、川魚も豊富でした。毎年そこでエコツアーのカヌー体験もしています。河川敷きでは夏休みの初めに、みんなで集まって水神さんを祀ってバーベキューをするのですが、その美しい川の面影はまったくなくなっていました。もとの姿に戻すのは、相当な時間と労力が必要でしょう。今月は、WebとBlogから少し台風関連を整理してみました。来月は楽しい話題に戻れますように...(矢)

全村森林公園 諸塚
百彩の森づくり

諸塚村

Presented by 諸塚村観光協会
「まちむら応縁倶楽部」